

香川大学 大学教育基盤センターニュース

No. 22

令和8年5月

*Higher Education Center
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel 087-832-1151~1153
Fax 087-832-1155
<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

目 次

1. 令和8年度の大学教育基盤センターの課題について…………… 1
2. 就任および退任のご挨拶…………… 3
3. 全学共通教育の令和8年度実施に向けた研修会（FD）報告…………… 7
4. 令和8年度新任教員研修会報告…………… 8
5. 注目の全学共通科目のご紹介…………… 10
6. 注目のFD等のご紹介…………… 13
7. 新スタッフからの一言…………… 16

1. 令和8年度の大学教育基盤センターの課題について

大学教育基盤センター長 岡田徹太郎

2022年4月に始まった第4期中期目標・中期計画期間は、2025年度（令和7年度）に中間評価が実施され、2028年4月に始まる第5期中期目標・中期計画期間を見据えた改革の準備に入る時期を迎えました。

大学教育基盤センターでは、これまで、全学共通教育のあり方について検討を重ね、学生が自ら学びの方向を見定め、主体的に選択していく力、すなわち自己選択力を育むことを重視してきました。

これらの新たなカリキュラムが真に学生の学びに資するものとなっているか、実施主体である私たち教職員にとって、無理なく継続可能な仕組みとなっているかについても検証を進める必要があります。すでに一定の成果が見られる一方で、今後解決すべき課題も明らかになりつつあります。

以上を踏まえ、2026年度（令和8年度）の大学教育基盤センターの課題を、以下の通り設定します。

1. 第5期に向けた全学共通教育カリキュラム改革の準備
2. DRI教育の全学展開の振り返り、アセスメントテストの検証
3. 分野横断型授業科目・ネクストプログラムの充実
4. 数理・データサイエンス・AI教育の充実と展開
5. 外国語教育とグローバル人材育成プログラムのさらなる充実
6. 地域理解に資する教育の円滑な実施と多様化の検討
7. 教員の教授能力の向上とFDコンテンツの充実

第1に、2025年度の中間評価を踏まえ、第5期にどのような全学共通教育カリキュラムを提供するのか、その理念を確認しつつ、具体的な設計を進める必要があります。全学共通教育を通じて学生にどのような力を育む必要があるのかを改めて確認し、全学的な合意を形成しつつ進めていくことが重要です。

第2に、第4期に全学展開を進めてきたDRI教育について、その教育効果を振り返る必要があります。あわせて、その指標の一つとして用いられたDRI検定・アセスメントテストのあり方についても、今後の改善に向けた検証を進めます。

第3に、分野横断型授業科目およびネクストプログラムについて、内容の充実と円滑な実施を図ります。複雑化する社会問題に対応するために、専門分野を越えて学ぶ機会を提供することが求められており、当センターはその先導的な役割を担っていきます。

第4に、数理・データサイエンス・AI教育の充実を引き続き推進します。これらの教育は、文理を問わずすべての学生に求められる基盤的能力と位置付けられつつあり、各学部の

専門教育との接続を意識しながら、全学的な展開を支えていく必要があります。

第5に、外国語教育とグローバル人材育成プログラムのさらなる充実を図ります。英語については、実践的な会話力と作文力、すなわち **Speaking and Writing Skills** の強化を意識したカリキュラムを実施していきます。初修外国語については、多様な言語や文化への理解を深める学びとして位置づけて進めてまいります。

第6に、地域理解に資する教育を円滑に実施し、多様化を検討します。地方国立大学である本学にとって、地域理解を深め、地域課題に向き合う教育はますます重要になっています。第5期を見据え、地域と結びついた学びをどのように教育カリキュラムのなかに位置付けるか、具体的な仕組みづくりを進めます。

第7に、新たな教育課題に対応できる教員の教授能力の向上を図ります。大学での学びをより充実したものにするためには、授業改善、生成AIの活用、アクティブラーニング、学修成果の可視化など、多様な課題に対応したFDコンテンツの整備と活用が必要です。

大学教育基盤センターは、全学共通教育の円滑な実施を支えるとともに、第5期に向けた新たなカリキュラムの編成に向けて、各学部・各部局の皆さまと連携しながら取り組んでまいります。教職員の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2. 就任および退任のご挨拶

調査研究部長 松岡久美



2026年4月から調査研究部長を拝命いたしました、経済学部の松岡久美と申します。専門は経営学です。

調査研究部は、大学教育基盤センターにおいて、いわば「シンクタンク」としての役割を担う部門であり、全学共通教育における「企画」および「点検・評価」に関わる業務を担当しています。具体的には、全学共通科目に関する調査・研究、カリキュラム開発、自己点検・評価、学部横断的な教育プログラムの開発、さらには全学共通教育の改革・改善に関する事項などに取り組んでいます。

昨今、大学教育を取り巻く環境は大きく変化しており、全学共通教育に対しても、より一層の質的充実と柔軟な対応が求められています。こうした状況を踏まえ、全学共通教育のさらなる充実と効率的かつ円滑な運営体制の構築に向け、これまで調査研究部において積み重ねられてきた取組を継承しつつ、全学的な教育方針を担う教育戦略室や共通教育部との連携を図りながら、調査研究部スタッフの皆様のお力添えをいただき、職務を果たしてまいりたいと考えております。

全学共通教育の改革・改善については、より多くの先生方に関心を持っていただき、ご意見やご提案をお聞かせいただければと思います。

どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

地域教育部長 西成典久



今年度より、岡田徹太郎先生の後任として地域教育部長を拝命いたしました経済学部の西成です。じつは、地域教育部長を務めさせていただくのはこれで2度目となります。1度目は、2015年度、当時大学教育基盤センター長を務められていた故藤井宏史先生からご推薦いただき、全学共通教育が何たるやは全く存じ上げないまま、自他ともに認める経験不足のなか、地域教育部長を務めさせていただきました。過去の大学基盤教育センターニュースを調べると、私自身の就任挨拶がWeb上でも確認でき、あらためて読み返すと、もともと工学部であった自分が人文社会系の先生方と一緒に働けることに対する知的な楽しみ、そして、香川の地で学生プロジェクト等を通じたまちづくり実践が行えることに対する率直な喜びが読み取れ、いまから10年前、同じ研究室で同じセンターニュースを書いている自分から予期せぬメッセージをもらい、改めて襟を正す思いとなりました。

様々な締め切りに追われながらも、学問本来の楽しさに触れること、そして、地域から学びつつ、地域に価値を生み出せることのやりがい、初心に戻り、その原点を羅針盤に、めまぐるしく変わる地方や大学のあり方を見定め、正道の道のを皆様と一緒に歩んでまいりたい所存です。

能力開発部長 渡邊彰



この度、松本洋明先生の後任として、2026年4月より能力開発部長を拝命致しました農学部の渡邊彰と申します。普段は三木町の農学部キャンパスにおります。専門は微生物生化学であり、微生物（特にキノコ類）が示すユニークな生命現象について、そのメカニズムを遺伝子、タンパク質、そして細胞レベルで明らかにするとともに、結果を応用面に繋げる取り組みをしております。また、学部・大学院教育では、微生物関連の授業や実験などを担当しております。私自身、能力開発部には、2022年度から2年間、農学部選出の委員として参画させて頂いておりましたが、この度は部長職を拝命することになり、心して取り組む所存でございます。

ここで大学教育基盤センター能力開発部について紹介させていただきますと、本能力開発部は、香川大学に所属する全教員の教授能力の向上を目指して活動を行っております。部長の他、大学教育基盤センター主担当教員、各部局から選出された委員、センター長が必要と認めた者、そして職員の総力で運営しております。具体的な活動内容としましては、(1) ファカルティ・デベロップメント (FD) の企画および実施に関わる業務、(2) 学生による授業評価の企画および実施に関わる業務、(3) カリキュラム評価の企画および実施に関わる業務、(4) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD) に関する業務、(5) 新任教員研修会や新任教員研修ワークショップの運営、そして (6) スチューデント・アシスタント (SA)、ティーチング・アシスタント (TA)、ティーチング・フェロー (TF) に関わる業務などを、年間を通じて行っております。

さらに近年では、上述の活動内容に対して、DX化やAIの躍進などが相まって、教授のための取り組み方も大きく変わりつつあります。このような現状の中ではございますが、これらの状況を理解し、皆様に有益となるように努めていきたいと考えております。ぜひ皆様のご協力を賜れますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



2026年4月より国際教育部長になりました宮島です。専門は国際政治学・国際関係論をディシプリンとした北東アジア地域研究で、研究対象・テーマは中国朝鮮族（在満朝鮮人の子孫で、中国の少数民族として生きるコリアン）の国際移動です。経済学部では、アジア社会論（韓国・北朝鮮の政治経済史を日米中ロとの関係から説明したり、李氏朝鮮時代からの連続性で韓国社会について説明する内容）や、夏休み期間中に韓国の協定校で実施する韓国研修科目などを担当しています。全学共通科目としては、初修外国語の韓国語を担当し、ネクストプログラム韓国語コースの創設などに関わってきました。私が大学生の頃は、第二外国語に韓国語という選択肢はなかったし、また、「韓国語を学んでいる」というと、「めずらしい」とか「変わっているね」と言われたものでしたが、最近では、日本の大学生にとって、KPOPや韓国ドラマが幼い頃から当たり前に身近にあった世代ですから、韓国語が（英語以外で）最もありふれた外国語になっています。香川大学のみならず、日本中の大学で、第二外国語に韓国語を選択する者の数が極端に増加したまま、高止まりしているそうです。試みに、初期的な調査を行ってみたところ、経済学部生で、初修外国語に韓国語を選択・履修している者の1割以上が、高校までに韓国語を学習した経験を持っていました（この調査結果は、「入学前韓国語学習歴に関する調査」『香川大学教育研究』（香川大学大学教育基盤センター）2025年3月、第22号に掲載）。しかし、旺盛な韓国語学習ニーズとは裏腹に、交換留学制度を利用して韓国の大学で単位を取得してくるという日本の大学生は、そこまで伸びていません。「旺盛な民間交流」と「限定的な高等教育交流」の間の乖離が、少しずつ埋まっていくことを期待し、そのための貢献がわずかながらもできればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

創造工学部教授 松本洋明



2022年4月より石井知彦教授より引継ぎ、能力開発部長として大学教育基盤センターの業務に携わらせて頂き、多くの貴重な経験を得ることができました。皆様に深謝申し上げます。2026年3月末をもち退任となり、併せて私の場合では、香川大学も退職し2026年4月から神戸大学工学部へ異動となりました。併せて香川大学に対する深い感謝の意も申し上げる次第です。本当に有難うございました。

2022年度から、大学教育基盤センターの皆様とともに、特に蝶先生、またご担当の事務の皆様（小橋様、木村様、野崎様）のご協力のもと様々な業務に携わらせて頂くことが出来ました。思い起こせば、ティーチングアシスタント（TA）のマニュアル作成、ティーチングフェローの制度設計、講習会の立ち上げ、FD業務での書式等の効率化などスタッフのメンバーと協働で立ち上げが出来たのは本当にいい思い出です。2024年度で

は四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）フォーラムの香川大学での開催もあり、スタッフの皆様と協働で準備し、前回大会（香川大での開催）を経験しているスタッフも殆どいなかったことから、手探りの中でも教職員が一致団結して準備できたこともいい思い出でした。フォーラムは残念ながら、台風の影響で中止となり、そのフォーラムの開催される週では天気予報と睨めっこの毎日を過ごしておりました。改めて2024年度ではSPODフォーラムが開催できず本当に残念でした。そのため次回では成功裏に香川大学で開催できることを祈願するところです。

重ね、大学教育基盤センター長（高橋先生、岡田先生）をはじめ、共通教育部長、大学教育センター主担当教員の先生方（佐藤先生、西本先生、蝶先生）、修学支援課の皆様から心からの感謝を申し上げます。上記した通り、私は神戸大学に異動致しており、神戸の地より香川大学大学教育基盤センターの今後共のご発展を祈願しております。これまでに本当にありがとうございました。

大学教育基盤センター教授 長井克己

2026年3月をもちまして、大学教育基盤センター国際教育部長を退任いたしました。各言語の先生方と修学支援課の皆様のご協力により、2年間2回の任期を無事終えることができました。この間には初修言語で新たに韓国語のグローバル人材育成（ネクスト）プログラムが開始され、英語と中国語に韓国語が加わった3言語での展開となりました。

近年の国際及び経済情勢から海外留学の難易度は高くなる一方ですが、学生の経済負担を減らすために英語の新プログラムを含めて、様々な工夫が凝らされています。英語では全学実施のTOEIC-L&Rテストを独自開発の統一テスト（Uniform Assessment Test）へと変更する改革が行われました。これにより学生の受験料負担がなくなるだけでなく、試験の内製化による柔軟なカリキュラム編成が可能になりました。センター所属の特命講師の先生方を含む各言語の先生方と、担当事務部局の皆さんの多大なご尽力に、改めてお礼申し上げます。

国際教育部教員が「グローバルオフィス」のメンバーとなる改革案は検討を重ねたものの実現には至りませんでした。各部局の先生方との連携が重要であることは論を俟ちません。新部長の下でますます外国語教育が充実しますよう、どうか引き続きご協力をお願いいたします。

3. 全学共通教育の令和8年度実施に向けた研修会(FD)報告

日時：令和7年12月2日（火）13:00～16:10

場所：幸町北キャンパス3号館321講義室及びオンライン開催

令和8年度の全学共通教育担当者を対象にした「全学共通教育の令和8年度実施に向けた研修会」が、開催されました。本研修会は、全学共通科目を担当する教員を対象に、全学共通教育について理解を深めていただくことを目的としています。開催方式は、講義室の対面と Teams によるオンラインのハイブリッドでした。参加者は、第1部が99名、第2部が76名でした。

第1部では、荒木伸一 理事・副学長（教育担当）から開会の挨拶ならびに岡田徹太郎 大学教育基盤センター長から新センター長挨拶が行われたあと、全学共通教育新カリキュラムについて、特に文理横断/分野横断型授業に焦点を絞った報告がありました。具体的には、「全学共通教育新カリキュラムの全体像」（三宅岳史 大学教育基盤センター共通教育部長）、文理横断/分野横断型授業について、「①学問への扉（越境する学問）」（蝶慎一 大学教育基盤センター准教授）、「②学問基礎科目（自然科学基礎実験）」（鶴町徳昭 創造工学部教授）、「③高度教養教育科目（他学部履修について）」（佐藤慶太 大学教育基盤センター教授）と題した報告がなされました。最後に、全学共通教育にかかる事務手続きについて、修学支援課から説明がありました。

第2部は、「どうする生成 AI」というテーマで実施されました。まず、本学の教員を対象に実施した生成 AIに関するアンケートの結果について、藤澤修平 大学教育基盤センター特命講師と佐藤慶太 大学教育基盤センター教授から報告がありました。次に、生成 AIに関する授業例として、「情報リテラシーB と生成 AI」（藤澤修平 大学教育基盤センター特命講師）、「レポート課題と生成 AI—マン・マシンのハイブリッド時代とどう向き合うか—」（鶴園裕基 法学部准教授）、「実践事例 大学入門ゼミにおける生成 AI を活用したグループワーク」（小林剛 農学部准教授）と題した報告がなされました。最後に、参加者からの質疑応答等が行われました。

詳細は『香川大学教育研究』第23号所収の報告をご覧ください。[香川大学学術情報リポジトリ\(nii.ac.jp\)](http://www.nii.ac.jp)からPDF版をダウンロードすることができます。

（文責：小坂有資）

4. 令和8年度新任教員研修会報告

日時：令和8年4月9日（木）9:00～16:35

場所：午前の部：幸町北キャンパス3号館321講義室

午後の部：幸町北キャンパス4号館432講義室

【プログラム】

午前の部 9:00～12:10

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1. 学長挨拶 | 上田夏生（学長） |
| 2. 香川大学 教育の現状と今後について | 荒木伸一（教育担当理事） |
| 3. 研究活動について | 秋光和也（研究担当理事） |
| 4. 香川大学の地域貢献の取組について
（産官学連携の推進） | 原直行（産官学連携・特命担当副学長） |
| 5. 教員業績評価について | 林敏浩（情報・教員評価・特命担当副学長） |
| 6. 研究インテグリティについて | 石原淳也（産学連携・知的財産センター特命教授） |
| 7. コンプライアンスを考える
化学物質規制に係る法改正の概要について | 大石浩（総務・労務担当理事） |
| 8. 情報セキュリティについて | 林敏浩（情報・教員評価・特命担当副学長） |
| 9. 各部局からの事務説明 | ダイバーシティ推進室・学生支援センター
・保健管理センター |

午後の部 13:30～16:35

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 新任教員研修挨拶 | 岡田徹太郎（大教センター長） |
| 2. 午後の部趣旨説明 | 蝶慎一（大教センター） |
| 3. 令和8年度全学共通教育の
枠組みと運営体制 | 三宅岳史（大教センター共通教育部長） |
| 4. 令和8年度全学共通教育の方法について | 岡田徹太郎（大教センター長） |
| 5. 香川大学におけるFDの概要について | 蝶慎一（大教センター） |
| 6. スキルアップ講座について | 西本佳代（大教センター） |
| 7. 新任教員お悩み相談 | 佐藤慶太（大教センター） |
| 8. 修了式 | |

令和8年度の香川大学新任教員研修会が、4月9日（木）に幸町キャンパスにて開催されました。今年度は、学部、研究科、附属病院、センター等から合計21名のご参加がございました。

まず、午前の部では、上田学長のご挨拶の後、香川大学の教育の現状と今後について荒木教育担当理事より、研究活動について秋光研究担当理事より、地域貢献の取組について原産学官連携・特命担当副学長より、ご説明がございました。その後、小休憩を挟み、教員業績評価について林情報・教員評価・特命担当副学長より、研究インテグリティについて石原産学連携・知的財産センター特命教授より、コンプライアンス/化学物質規制について大石総務・労務担当理事より、情報セキュリティについて林情報・教員評価・特命担当副学長より、そして、各部局からの事務説明として、ダイバーシティ推進室/学生支援センター/保健管理センターより、各々のご説明がございました。



引き続き、午後の部では、会場を変え、岡田大学教育基盤センター長のご挨拶の後、午後の部のプログラムについて蝶大学教育基盤センター教員からの趣旨説明がございました。続いて、令和8年度の全学共通教育の枠組みと運営体制について大学教育基盤センターの三宅共通教育部長よりご説明がございました。その後、岡田大学教育基盤センター長より、令和8年度の全学共通教育の方法について、アイスブ

レイクおよび簡単なグループワークが行われました。そこでは、参加者の理解度を確認しながら進めるアクティブラーニングの実演をご教示頂きました。小休憩の後、大学教育基盤センターの蝶教員からの香川大学におけるFDの概要（情報提供と解説）、大学教育基盤センターの西本教員からのアクティブラーニングを目指したスキルアップ講座、そして、大学教育基盤センターの佐藤教員を進行役に、新任教員お悩み相談が各学部教員のご経験談を交えながら、Padlet ツールを活用して行われました。

相談会の後、一旦研修会の修了式を行い、引き続き、対象者に対して大学教育基盤センターの蝶教員から、新任教員研修プログラムガイダンスが行われました。

研修会終了後は、大学会館2階の「カフェ空・海」において、懇親会が開かれました。懇親会では、学長、各担当理事、学部長・研究科長、各部局の新任の教職員等を交え、有意義な情報交換が行われました。

(文責：渡邊彰)

5. 注目の全学共通科目のご紹介

- 講義名：主題科目「協同組合概論」
- 担当：岡田徹太郎（経済学部）
- 講師：青木覚（JCA 日本協同組合連携機構）、北出顕啓（香川大学生協）、亀井愛知（コープかがわ）、中野秀樹（JA 香川県）
- コーディネーター：細川朝香（コープかがわ）、上原学（JA 香川県）
- 開講時期：第3クォーター
- 受講者数：63名（2025年度受講者数）

<コーディネーター・細川より>

「私たち『協同組合』について学べる機会をつくりたい」そんな思いから、香川県農業協同組合、生活協同組合コープかがわ、香川大学生活協同組合の3つの協同組合と香川大学が協力してこの授業を開講しました。2025年が「国際協同組合年」という協同組合にとって特別な1年であったことや、岡田徹太郎先生と出会えたことが今回の授業開講を後押ししてくれました。

この授業は、協同組合の理念や基本原理、歴史、種類についての学びから始まり、先に述べた3つの協同組合がそれぞれ地域とどのように関わっているか、どんなことに取り組んでいるのか、より具体的な実践を各組合の役職員から学ぶという流れで進めてきました。経済学的な視点で見ると、「協同組合」の理念や考え方は、いわゆる「株式会社」とは大きく違います。それは、生まれた背景や運営の方法に起因しています。そして、それぞれの「協同組合」で得意なことも違います。事業活動を通じて地域に貢献している部分を切り取ると同じように見えるかもしれませんが、そんな違いもこの授業で知ってもらえたらうれしく思います。

毎回の授業の組み立ては岡田先生と相談を重ねながら進めてきました。授業の中でその日の内容に合わせたテーマでワークを行う時間をとったことは、学生の皆さんの理解を深めることにつながったのではないのでしょうか。受講された学生の皆さんからは「それぞれの事業を行う根拠が、利益のためではなく組合員のためということを強く感じた」「協同組合が持つ地域密着性や組合員主体の運営という原則は、格差や地域コミュニティの希薄化といった課題に対する解決策として非常に重要だと感じた」といった声を寄せていただきました。

皆さんの身の回りにはたくさんの「協同組合」が存在しています。もしかしたら、知らず



知らずのうちに関わっている協同組合がすぐそばにあるかもしれません。

<担当教員・岡田より>

協同組合についての授業を提供したい、そのような申し出を受けてから、従来の外部講師によるオムニバス授業とは異なる設計で実施したいと考えていました。従来型は、冒頭の講師紹介などを大学側で行うものの、授業の大半を外部講師にお任せしてしまう形が多いように思います。

どうしても、受講生も受動的になりがちです。積極的に対話を進めようとする外部講師もいらっしゃると思いますが、90分の授業コマで講師と受講生の良い関係を作り上げるのは難しいのではないかと感じてきました。

他の対話型オムニバス授業・学問への扉「越境する学問」や、経済学部の専門科目「現代経済社会事情」での自身の経験を振り返りながら作り上げた授業がこの主題科目「協同組合概論」です。

協同組合論なので、自身の経済学の専門知識を活かします。そして準備の際にコーディネーターであるコープかがわの細川さん、JA 香川県の上原さん、そして講師を務められた JCA の青木さんと、事前に十分に相談する時間を持つてました。何を講義で話していただくのか、グループワークの問いをどう設定するか、学生の振り返りレポートにどう答えるかなど考えながら授業を組み立てました。

おおむね、冒頭に振り返りの時間を設け、講演前半約 30 分、中間グループワーク約 10 分、講演後半約 30 分、最後の課題ワーク約 15 分の構成としました。

このような授業設計により、講師と学生の間には有機的なやり取りができたのではないかと考えています。受講生の皆さんが協同組合について学んでどう受け止めたかは、細川さんが前述している通りです。

(文責：細川朝香 (コープかがわ) / 岡田徹太郎 (経済学部))

- 講座名：ライフデザイン「多様なライフ・キャリアを考える—男女共同参画の視点から」
- 講師：平野美紀、和田千寛 (ダイバーシティ推進室)
- 開講時期：第 1 クォーター
- 受講者数：100 名

多様なライフ・キャリアは、さまざまな分野で活躍する実務家によるオムニバス形式の授業を通して、男女共同参画の視点から自分自身の生き方や働き方について考えることを目的とした授業です。2026 年度は、総務省、NPO 法人、県庁、労働局、企業で働く方々をはじめ、市議会議員、弁護士、医師など、幅広い分野で活躍されている講師の方々にご協力いただいています。授業を受ける方には、世の中にはどのような生き方や働き方があるのか、その選択肢を知るとともに、自分はどのように生きていきたいのか、そしてそのために何が必要なのかを考えてほしいと思っています。例えば、仕事と子育てを両立させたいと考えたとき、どのような支援が利用でき、その情報をどこで得られるのでしょうか。このような具

体的な視点を保ちつつ、自分の今後の生き方や働き方、さらには他者との関わり方まで、幅広く、そして時には深く考えるきっかけとなる授業です。

(文責：和田千寛)

6. 注目のFD等のご紹介

- 講義名：新型コロナ対応に見るリスクマネジメントの課題
- 日時：令和8年3月4日（水）10:30～12:00
- 場所：幸町北キャンパス4号館432講義室及びオンライン開催
- 講師：香川大学医学部附属病院横田恭子（感染症教育センター長・准教授）
- 参加者：57名

本FDは、DRI教育のリスクマネジメントに関するFDとして開催されました。本FDでは、新型コロナウイルス感染症対応の現場経験をもとに、非常時に明らかになった問題点を整理し、今後目指すべき体制づくりの指針を提示していただきました。また、これらの教訓を通して、医療現場に限らず他の機関においても、平時から備えるべき実践的なリスクマネジメントの考え方をご教示いただきました。

具体的には、まず、1998年以降の新興感染症の発生状況や疫学上の大きな転換点について、説明をしていただきました。次に、2019年以降の新型コロナウイルス感染症について、当時の日本および世界の状況や対策にもふれながら、香川県における新型コロナウイルス感染症対応について、最前線で関わられたご経験をもとに解説していただきました。さらに、これらの経験を踏まえ、危機管理の観点から見た新興感染症対策、危機に備えるためのリスクマネジメントおよびリスクコミュニケーション、危機発生後のクライシスマネジメントとクライシスコミュニケーションについて説明していただきました。

質疑応答では、参加者が当時の状況や対応を振り返りながら講師に質問を行い、活発な意見交換が行われました。

（文責：小坂有資）

- 講座名：数理・データサイエンス・AI教育 愛媛県立三島高等学校放送部での講座
- 日時：令和8年2月27日（金）15:00～17:30
- 場所：愛媛県立三島高等学校
- 講師：藤澤修平（大学教育基盤センター）、西本佳代（大学教育基盤センター）

「注目のFD」では、通常FDの内容を紹介しますが、今回は、高校で実施した講座をご紹介します。大学教育基盤センターは、数理・データサイエンス・AI教育を所掌しています。その業務の一環として、高校で統計に関する講座を開講しました。

ご依頼があったのは、愛媛県立三島高等学校放送部です。放送部の皆さんから、「NHK杯全国高校放送コンテスト準々決勝において、後半に発表した方が準決勝進出しやすいのではないか？」という問いが出されました。この問いに答えるため、「帰無仮説：準決勝進出は発表順と無関係である」「対立仮説：準決勝進出は後半のほうが進出しやすい」と

設定した仮説検定について学ぶ講座を開講しました。放送部の皆さんは、実際に、Excelを用いながら、データ整形、データ分析、データ解釈を行い、帰無仮説を棄却できるのか考えました。複雑な関数を前に表情を曇らせながらも、放送部の皆さんは、一生懸命、演習に取り組み、質問してくれました。当日の収録内容は、当該コンテストの応募に使われるようです。いいラジオ番組ができるよう、応援しています！

(文責：西本佳代)



■令和7年度後期FD実施報告

大学教育基盤センターでは、令和7年12月以降に以下のとおりFDを実施しました。

講座名：主題担当者用FD（アドバンスト） 事例を踏まえて学ぶ課題探求型授業のデザイン 日時：令和7年12月17日（水）～令和8年3月31日（火） 開催方法：オンデマンド（香川大学 Moodle） 講師：小坂有資、佐藤慶太、三宅岳史など調査研究部常設WGメンバー （大学教育基盤センター） 参加者：10名 （受講対象・令和8年度主題科目担当者教員、新任教員研修プログラム対象教員）
講義名：主題担当者用FD（ベーシック） 事例を踏まえて学ぶ課題探求型授業のデザイン 日時：令和7年12月17日（水）～令和8年3月31日（火） 開催方法：オンデマンド（香川大学 Moodle） 講師：小坂有資、佐藤慶太、三宅岳史など調査研究部常設WGメンバー （大学教育基盤センター） 参加者：22名 （受講対象・令和8年度主題科目担当教員）
講義名：学生の学びを促すシラバスの書き方 日時：令和7年12月25日（木）10:30～12:00 場所：幸町北キャンパス5号館523講義室 講師：蝶慎一（大学教育基盤センター准教授） 参加者：5名

講義名：学生参加型授業の技法
日 時：令和7年12月25日（木）13:00～14:30
場 所：幸町北キャンパス5号館523講義室
講 師：西本佳代（大学教育基盤センター准教授）
参加者：5名

講義名：基礎から学ぶ学習評価法
日 時：令和7年12月25日（木）14:40～16:10
場 所：幸町北キャンパス5号館523講義室
講 師：佐藤慶太（大学教育基盤センター教授）
参加者：5名

講義名：シラバス・授業を改善しよう
日 時：令和7年12月26日（金）10:00～15:00
場 所：幸町北キャンパス5号館523講義室
講 師：蝶慎一・西本佳代・佐藤慶太（大学教育基盤センター）
参加者：4名

また、次年度にティーチング・フェローとして活動予定の大学院生を対象とした TF 講習会を、9月に引き続き、以下のとおり実施しました。

講義名：ティーチング・フェロー（TF）講習会
日 時：令和8年2月24日（火）13:00～17:50
場 所：幸町北キャンパス8号館811講義室
講 師：松本洋明・蝶慎一・西本佳代・佐藤慶太・能力開発部委員
（大学教育基盤センター）
参加者：2名

7. 新スタッフからの一言

大学教育基盤センター特命講師 Sapochak Hans Ebner



私の名前はハンス・サポチャクと申します。2015年に来日し、それ以来ずっと香川に住んでおります。アメリカの大学では日本の仏教と神道を学び、その奥深さにすっかり魅了され、日本という国に強く惹かれるようになりました。この国に住み始めて十年が経ちますが、日本の文化に対する敬意と愛着は深まる一方です。

約七年間、地元の旅行会社に勤め、その間に四国八十八箇所霊場を巡礼する機会に恵まれました。それまで書物を通じてしか知らなかった四国四県の文化・歴史・伝統を、実際にこの目で体感することができました。この経験は非常に意義深く、学問の世界への思いをあらためて強くさせてくれました。

このような経緯から、香川大学で教える機会をいただけたことを大変光栄に思っております。十年間「故郷」と呼んできたこの場所に、少しでも恩返しができるばと思っております。日本の豊かな文化と歴史を背景に、学生の皆さんが英語力を高め、グローバルな社会で自信を持って活躍し、学業・キャリアの目標を達成するとともに、日本の素晴らしい文化を世界に発信できるよう、全力でサポートしたいと考えております。

香川県は空海の生誕地であり、日本史上最も偉大な知性の一人を生んだ土地です。この大学が四国そして全国に向けた教育の拠点として発展していくことは、まさにふさわしいことと感じております。その目標に貢献し、この大学を選んでくださった学生の皆さんをしっかり支えていけることを、心より楽しみにしております。

教育・学生支援部長 平岡桂子

令和8年4月1日付けで教育・学生支援部長を拝命しました平岡桂子です。私は、本学法学部を卒業して以来、香川大学で勤務をしております。これまでの間、本学が組織改編やカリキュラム改正を幾度となく重ね、進化を遂げてきた過程を間近で見まいりましたが、テクノロジーの進化やグローバル化の進展など様々な要因により社会が複雑化・多様化した今では、教育・研究分野は多岐にわたり、業務はより一層複雑になって専門性を求められるようになりました。大学職員が対応すべき課題は膨大で、業務遂行にあたっては的確かつ迅速を求められます。このような状況下で、疲弊する職員は少なくありません。本当に必要なものを厳選し、慎重に取り組むためのプロセスを構築し、業務のスリム化を図ることが不可欠であると感じています。よりシンプルかつ円滑な運営を目指して取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

修学支援課長 海老野薫

令和8年4月より教育・学生支援部修学支援課長を拝命しました海老野薫です。
分からないことばかりですが、日々皆さまから学ばせていただきながら、成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

修学支援課 石井沙世

令和8年4月より修学支援課配属となりました、石井沙世と申します。
全学に関する業務のため、3月まで数年間携わった学部教務とはまた異なり、より幅広い視点と知識をもって対応しなければならないことを日々痛感しております。
一日でも早く、広い世界を自分自身の足で踏みしめて歩いてゆけるよう、目の前の一つ一つのことを大切にしながら、精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

修学支援課 石橋羽美

令和8年4月付けで、修学支援課に採用となりました石橋羽美と申します。
未熟な点も多く至らぬことと存じますが、学生の皆さんや教員の方々のお役に立てるよう、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援課）までお願いします。